



6年生を送る会

6年生の卒業まで、あと1か月足らずとなりました。22日（木）には、「6年生を送る会」を行いました。内容は、各学年からの案を持ちより開かれた代表委員会で決定し、メインの活動は「全校かくれんぼ」となりました。全体の計画・進行は、来年度、最上級生となる5年生。しっかりと準備や練習をして当日に備えてくれました。

「全校かくれんぼ」では、1・2回戦は6年生が、3回戦は5年生がおにになり、他学年が色々な教室に隠れました。「え？こんなところに？」と思うようなところに上手に身を潜めたり、隠れたつもりなのに足先だけがひょっこり出ていてあっさりと見つかったりと、ほっこりする場面がたくさんありました。みんなルールを守って安全に行うことができました。また、縦割り班の班長さんの6年生にあてて、班員がメッセージを色紙をプレゼントしました。プレゼントされた6年生は、照れながらもじっくりとメッセージに目を通す様子が見られました。

色々な場面で全校のお手本になってくれている6年生。卒業まであとわずかとなりましたが、小学校での思い出をたくさん作り、また、後輩に色々なことを引き継いで卒業してくれることでしょう。立派に運営してくれた5年生にも大拍手です！！

進行役の5年生。
テキパキと進めてくれました。



6年生入場！



おに役の6年生



みつけた！



色紙に目を通す6年生



アーチを通過して退場



音読集会 ～土佐日記暗唱～

本校では、ゆかりのある紀貫之の「土佐日記」の暗唱を代々行っています。1年生から少しずつ覚えていき、6年生になると「門出のまつり」でかなりの長文を暗唱します。

本年度最後の音読集会では、これまでの練習の成果を披露しました。1年生は初めての暗唱でしたがしっかりと覚え、凛々とした声で発表ができました。6年生は、人数が一番少ないにもかかわらず、一番大きな声でしっかりと発表してくれました。さすが全校のお手本です。

暗唱には様々な教育効果もあり、本校の伝統としてこれからも続けていきたいと思えます。



「きらりカード」の取組

学校生活においては、子どもたち同士の様々なトラブルもあります。「〇〇と言われた」など、主に相手を傷つけてしまう発言によるものが多いです。

子どもは、様々なことを通じて、やさしさや相手を思いやる気持ちを身につけていくものですが、日々の生活の中で、互いを認め合い、温かい言葉を掛け合えるよう、各学級や全校で取り組んでいます。その取組の一つとして、「きらりカード」の取組を始めています。子どもたちは、それぞれの友達のよさに、案外、気付いていないことが多いように思います。そこで、この「きらりカード」は、教職員が子どもたちの日々の様子の中の「やさしさ」や「がんばり」などを見つけ、その「きらり」と光ることをメッセージに書いて渡しています。子どもたちを見ていると、人が見ていないところでもまじめに掃除に取り組んでいたりと、毎朝、元気な声で挨拶ができていたり、困っている友達がいたらすぐに助けてあげたりと、すてきな場面がたくさんあります。そういった場面を教職員がを見つけ、各学級で紹介することによって、児童の自己肯定感を高めるとともに、友達の良さに目を向けられるようになってほしいと願っています。子どもさんが「きらりカード」を持ち帰った際には、ぜひ、たくさん褒めてあげてください。

「国府っ子応援団」
募集中!

